

一般質問

豊かな海を
残すために

本間勘太郎 議員

質問 海は全ての人にとって大切な財産である。E M菌

の働きを活用した取り組みが全国的に広がり、当市でも一部農家でE M活性液による野菜や米づくり、海ではE M団子の投入による水質の浄化活動が始まっている。下水道事業においても他県ではE Mの活用による成功事例があるが、当市においても環境に一層配慮した施設運営が求められる。全国の成功事例を調査研究するプロジェクトを設け、知識の共有が必要ではないか。

市長 担当とも良く話をし、ぜひ研究を進めていきたい。

佐渡観光と食育について

質問 佐渡地域振興局と市の連名で、各漁業組合長と漁業集落代表者宛に密漁防止の行き過ぎを注意する文書が送付されているが、密漁監視の規制緩和では根本的な解決には至らない。観光業と水産業が共に良かったと言える環境づくりが必要と考えるが、市の対策を問う。

市長 ルールやマナーを守っての折り合いが必要である。各漁協の中で調整をお願いしたい。

農林水産課長 遊漁について

の冊子があるが、観光客に周知されていないかった。もっと丁寧の説明が必要があると考えている。

質問 以前、市長は観光業者等の地産地消について協力

を求めるという答弁であったが、漁業に対する消費者の関心が農業に比べ格段に低い。日本の食文化は魚抜きでは考えられないのに、漁業に関する消費教育がされていないことが原因と思われる。今後に向けた具体的対策を問う。

市長 来年から旅館や給食センターなどに合わせた食材提供の仕組みを考え、農水産物の地元消費を高めるよう工夫する。

質問 本年7月に食育基本



法が施行され、地場産物への理解度の向上と食文化の継承が求められている。学校給食において魚の地産地消が低いようであるが、献立づくりにおける問題点は何か。子どもでも佐渡の魚は何か、いつ美味しいのかを観光客に教えられるくらい、食育を押し進めていただきたい。

学校教育課長 魚の骨が喉につかえることと、費用の面が原因である。しかし佐渡は海に囲まれており水産物は豊富である。できるだけ水産物を多くとるようにしていきたい。

教育長 食育は栄養士が教諭兼務として進めているが、学校給食だけでは制約があるので、家庭と連携を取りながら進めていきたい。

※E M菌の働き

E Mは、自然界の蘇生型の微生物と共に汚染を減じ、生き物が住みやすい環境を作ります。